

“メディアのルール”を決めよう！

★ ここでいうメディアは！ 主に電子映像メディアのテレビ・ビデオ・テレビゲーム・インターネット(パソコン、ケータイ)をさします。

★ 日本の子どもはメディア漬けの状態です

乳児期からテレビ・ビデオ、そして幼児期にはゲームも加わって、メディアに長時間接触しています。4か月児健診での調査によると、約8割の母親がテレビを見ながら授乳して、赤ちゃんが起きているときに6~7割の家庭で3時間以上テレビがついている状態です。

3歳以上の幼児では、1日3時間以上もテレビ・ビデオを見ている子どもが約半数にのぼり、ひとりだけで4~5時間以上ビデオをくり返し見ている子もいます。小学生から高校生のテレビ・ビデオ・ゲームなどに費やす時間は平均3時間半といわれています。

★ メディア接触の早期化・長時間化の影響は強力です

乳幼児期に親子が眼と目を合わせ、ことばとからだでしっかり触れあうことが親子のきづなを作り、子どものこころを育て、言葉を発達させます。メディア接触の早期化・長時間化は、この親子のコミュニケーションを妨げます。現実には長時間テレビ・ビデオを視聴している子どもで言葉の遅れや視線が合いにくいなどの報告もみられます。また夜更かし、睡眠不足の原因になり、昼間の活動や体の調子、情緒の安定などに大きな悪影響を与えます。

さらに、現実の社会のルールなどが分からない幼児期早期から、ゲームで人や動物が死んでも、操作だけで何回でも簡単に生き返るような経験や、暴力行為で相手を倒してポイントを取るような遊びがくり返されると、子どもの感覚を狂わせます。

★ ケータイやパソコンのインターネットには危険な落とし穴があります

「〇〇ちゃんも持っているからケータイかってよ。」と子どもからせがまれた時はどうしますか？ケータイはいつでもどこでも連絡をとることができて確かに便利です。しかしメールや電話の相手・内容が分からず、友人関係が把握できません。中には子ども同士のいじめの手段に使われることもあるのです。ケータイ依存症になっている子どももいます。

インターネットから悪意のあるサイトや有害なサイト、子どもにふさわしくないサイトに自由自在にアクセスできるため、高額な料金請求や性犯罪にまきこまれるなどの被害が多発しています。

★ あなたのおうちではいかがですか？

- 大人が目覚めとともに無意識にテレビのスイッチを押し、見ていなくてもつけっぱなしの状態ではありませんか？
- 忙しくてついついテレビに子守をさせてはいませんか？
- ビデオを見せておけばおとなしいから楽だと思っていませんか？
- 赤ちゃんにビデオで早期教育などを始めていませんか？
- 子どもがゲームに夢中になって何時間でもやり続けるのを許していませんか？
- インターネットを自由に子どもだけでさせていませんか？
- 子どものケータイの利用状況を把握していますか？

★ 子どもの健やかな成長のために メディアとのつきあい方を考えましょう

1. 2歳までは、テレビ・ビデオの視聴をできるだけ控えさせましょう。
2. 授乳中、食事時のテレビ・ビデオの視聴はやめましょう。
3. すべてのメディアへ接触する時間は、1日2時間以内に制限して、外遊びや勉強の時間を作りましょう。テレビゲームは、1日30分以内を目安にしましょう。見るテレビやビデオは子どもと相談して決めましょう。
4. 子ども部屋にはテレビ・ビデオ・パソコンを置かないで、家族共通の部屋に置きましょう。
5. インターネットは大人と一緒に使い、マナーを教えましょう。子どもに見せたくないサイトにアクセスできないように、フィルタリングをかけましょう。
(閲覧・受信制限ができるフィルタリングソフトがあります。)
6. ケータイを持たせるときは、あらかじめ話し合っ、使用場所、使用時間、使う目的などのルールを決めましょう。
契約時に必要な機能だけに制限するのがよいでしょう。その後も子どもの使い方を見守ることが大切です。

